

## A case of endovascular therapy for Leriche syndrom

Kizawa Memorial Hospital, Japan

Makoto Yamaura

【目的】 Leriche 症候群に対する血行再建は原則外科的バイパスであるが侵襲の高さ故に手術困難な患者が存在する。今回我々はバイパス困難とされた Leriche 症候群に対し EVT を施行したので報告する。

【症例】 80 歳男性。両側下肢の安静時痛を主訴とし腎動脈以下から両側総腸骨動脈に至る完全閉塞を認める Leriche 症候群を認めた。左上腕動脈へ 4Fr シース挿入し造影カテを挿入、両側 CFA へ 9Fr Optimo sheath を挿入し、GW : Athlete Rubby hard→AstatoXs 9-12、MC : Prominent を用い IVUS ガイドに病変貫通に成功。Sleek(2.0×120)で前拡張し、TVAC にて頻回に血栓吸引施行。SmartControl(7.0×100)を腹部大動脈から CIA に向け左右同時に留置し overlap させ SmartControl(7.0×80)を追加。AviatorPlus で後拡張施行。Optimo sheath より造影し血栓ないこと確認しバルーンを解除。最終造影では下腿動脈まで良好に造影され、術後 ABI : 0.95/0.87(術前 0.41/0.48)まで上昇。周術期合併症なく手技時間は 3 時間 20 分で終了した。

【考察】 Leriche 症候群に対し血管内治療を施行した 12 例を対象とした土肥らの報告 (CVIT 学会誌 : 2009.11)では、初期成功率は 92%、中期開存率は平均観察期間 15.6 ヶ月で、一次開存率は 1 年で 90%、2 年で 72%、二次開存率は、1 年で 90%、2 年で 90%とされている。周術期合併症は、死亡・下肢切断など認めておらず、Leriche 症候群に対する EVT の初期・中期成績は良好であると考えられる。

【結論】 Leriche 症候群に対し EVT を施行し成功した一例を経験した。遠隔期開存につき今後 follow up していく。